

山口宇部 医療センター だより



ときわ公園(宇部市)の風景

理念

患者の権利を尊重し、最新の医学知識に基づく医療を提供します。

基本方針

1. がん、呼吸器疾患の専門病院として、高度で専門的な医療を提供します。
2. 重症心身障害児(者)の専門施設として、きめ細やかな医療と療育を提供します。
3. 十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
4. 臨床研究を推進し、医学の進歩に貢献します。
5. 地域医療連携に努め、医療従事者、地域住民の医学教育、研修を行います。



独立行政法人 国立病院機構

山口宇部医療センター

山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)

〒755-0241

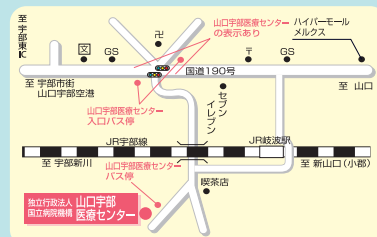
山口県宇部市東岐波685番地

TEL.0836-58-2300(代)

FAX.0836-58-5219



<http://www.yamaguchi-hosp.jp/>



令和3年

新任医師・ 職員紹介



呼吸器内科
呼吸器内科医師
原田 美沙
(はらだ・みさ)

山口大学医学部附属病院から赴任した原田美沙と申します。生まれも育ちも山口県であり、当院で県内の呼吸器診療に携わることができ嬉しく思います。

学生時代に出会った「がんとともに生きる」という言葉が非常に印象に残っており、がんと共存して自分らしく生きる、COPDや間質性肺炎などの呼吸器慢性疾患も同様だと感じています。治療だけでなく疾患の受容や周辺環境の整備も含め、患者さんが疾患と関わるためのサポートができる医療者でありたいと思います。



2階病棟・看護師
清水 亜季
(しみず・あき)

私は介護職での病院勤務経験から、もっと患者さんの役に立ちたいと看護師を目指しました。呼吸器疾患看護に興味があり山口宇部医療センターへの就職を希望しました。念願の呼吸器外科病棟に配属となり、まだまだ分からないことも多くありますが、先輩看護師さんに聞きながら毎日頑張っています。



4階病棟・看護師
近重 ひかる
(ちかしげ・ひかる)

4月から4階病棟に配属になりました。出身地は宇部です。岩国医療センター付属岩国看護学校を卒業後、地元に戻ってきました。看護師になって3ヶ月経ちましたが、業務に慣れることや時間管理など難しいことも多くありますが、先輩方から日々指導をいただき徐々にできる看護技術も増えとても嬉しいです。患者さんに安全、安楽な看護が提供できるように日々勉強して頑張っていきたいです。



5階病棟・看護師
原田 早紀
(はらだ・さき)

4月から5病棟に配属されました。まだ知識や技術は未熟ですが現在採血や静脈内注射を頑張っています。私の座右の銘は克己心です。この言葉を胸に日々精進していきたいです。



きらら西病棟・看護師
平井 朋美
(ひらい・ともみ)

山口市出身です。患者さんの状態が日々変化する中で、しっかりとアセスメントし、その患者さんに合った対応ができるようになりたいと思います。趣味は音楽を聴くことです。BIGBANGとTWICEが好きです。

コロナが収束したら、韓国に旅行に行きたいです。



きらら東病棟・看護師
岩本 和美
(いわもと・かずみ)

宇部市出身です。入院を経験し不安になっている時、看護師の声掛けで不安が和らぎ、自分もそのような看護師を目指したいと思いました。きらら東病棟は、理想とする先輩も多く、毎日勉強させて頂いています。



緩和ケア病棟・看護師
斉藤 絵里子
(さいとう・えりこ)

山陽小野田市出身で以前はリハビリ病院に勤めていました。最期の瞬間までその人らしく過ごせるような寄り添える看護を行いたいと思い、緩和ケアを希望しました。患者さんに「ここで過ごすことができ良かった。あなたでよかった」と思ってもらえるような看護師を目指して頑張っていきたいです。



企画課・外来係
原田 結妃
(はらだ・ゆい)

企画課外来係の原田結妃です。出身は岡山県で、4月に山口県に引っ越してきました。社会人1年目として、早く仕事を覚えられるように精一杯頑張ります。よろしくお願ひします。

- 趣味：映画鑑賞
- 出身地：岡山県
- 好きな食べ物：おにぎり、味噌汁
- 好きな動物：犬
- 座右の銘：初心忘るべからず



薬剤部・薬剤師
幸原 美奈子
(こうはら・みなこ)

4月に入職いたしました、薬剤師の幸原と申します。入職してから三か月が経ちますが、日々新しい学びを得られて充実しています。一人前の薬剤師として貢献できるよう精進しますので、よろしくお願ひいたします。

呼吸器内科



呼吸器内科医師 恐田 尚幸

皆様こんにちは。私たち呼吸器内科は、腫瘍内科と一体となって診療を行っています。

主に担当するのは、「肺の病気」ですが、呼吸は、はな・のど・むねの様々な器官が関わっているため、全身を診るよう心がけています。当科の主な症状に、せき・たん・息切れがありますが、原因として、ウイルス・細菌(結核菌を含む)・カビなどの感染症や、ぜん息に代表されるアレルギーの病気、肺がん、肺に穴があく気胸など様々な病気に関わっています。長く続くせきの原因として、副鼻腔炎(ちくのう症)や逆流性食道炎(胃酸の逆流による胸やけ)が隠れていることもあります。

当科では主に、胸のレントゲンやCTなどの画像検査、血液検査、肺活量などを測定する呼吸機能検査、アレルギーによる炎症の程度を測定する呼気一酸化窒素検査、たんの検査を行います。必要時は、気管支鏡検査(肺の内視鏡検査)を入院下で行います。

当院は胸部の悪性腫瘍の診断・治療に力を入れており、2015年より山口県特定領域がん診療連携推進病院(肺がん)に指定されています。肺がんに加え、アスベスト(石綿)が関わる悪性胸膜中皮腫(あくせいきょうまくちゅうひしゅ)、胸腺(きょうせん)腫・がんなどの化学療法も行っており、腫瘍内科と密に連携しています。さらに、手術や放射線治療を組み合わせた治療を行うため、呼吸器外科・放射線科と週1回合同で症例検討会を行っています。緩和治療(痛みや苦痛を減らす治療)についても緩和ケア科と相談し、早期より取り組んでいます。

肺炎やタバコが主な原因である慢性閉塞性肺疾患(COPD)、ぜん息は頻度の高い病気です。これらは急に悪くなることも多く、近隣の医療機関より多くの患者さんをご紹介頂いています。結核は、かつて「国民病」「亡国病」とも言われました。現在、治すことが可能な病気となりましたが、今もなお重大な感染症の1つです。当院は山口県で唯一の結核病床を有しています。「肺の病気」には、間質性肺炎(かんしつせいはいえん)や非結核性抗酸菌症なども含まれます。これらの病気は診断が難しく、治療が長期に及ぶことも多いため、入院中は多職種での呼吸リハビリテーションを積極的に行っています。他にも、睡眠時無呼吸症候群の診断・治療を週1回、特殊外来で行っています。

また、国立病院機構の理念の1つである、質の高い臨床研究の推進にも力を入れています。臨床研究部・治験管理室と連携しておりますので、先進的な治療・研究が選択肢となる場合は、お声かけをさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。



呼吸機能検査装置



呼気一酸化窒素測定装置



気管支鏡検査を行うエックス線透視室

緩和ケア内科



緩和ケア内科医長 小笠原 啓子

皆さん、「緩和ケア」ってご存じですか？ 緩和ケアとは、病気に伴う身体的な苦痛だけでなく、気持ちのつらさ、社会的な問題による苦痛などを和らげ、患者さんやご家族の生活の質が向上するように支援することです。日本では、がん対策推進基本計画に基づいて、“がんと診断されたときからの緩和ケア”が推進されており、当院においても、病期に関わらず、緩和ケアを実施しています。私たち緩和ケア内科は、緩和ケアの専門家として、主にがん患者さんを対象に緩和ケア病棟および緩和ケアチームで、専門的緩和ケアを提供しています。

緩和ケア病棟

すべての病室から海を臨める絶好のロケーションにあり、現在緩和ケア専従医師2名で担当しています。毎日病棟カンファレンスを実施し、患者さんの情報をスタッフで共有して、チーム医療を実践しています。

緩和ケア病棟入院後、苦痛が緩和されて自宅退院を希望される方には、在宅医をご紹介するなど積極的に退院調整も行っています。

緩和ケアチーム

一般病棟に入院中で希望された方を対象に、週2回(火曜日5階病棟、木曜日4階病棟)回診を行い、主治医や病棟看護師と連携して、患者さんが安心してがん治療を受けられるよう、サポートしています。

チームのメンバーは、緩和ケア内科医師、精神科医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、管理栄養士、心理療法士で構成され、痛みや治療に伴う副作用への対策、不安や気分の落ち込みなど精神的な症状の治療、日常生活や退院後の療養生活についてのアドバイス、服薬指導、食事や栄養についてのアドバイスなど、幅広く対応しています。

緩和ケアは、患者さんだけではなく、患者さんを支えるご家族や大切な方々の不安や心配事にも対応いたしますので、どうぞお気軽にご相談ください。



緩和ケア病棟外観



緩和ケア病棟個室



緩和ケア病棟からの眺め



緩和ケア普及啓発ポスター(日本緩和医療学会作成)
※院内に掲示しています

放射線科



副診療放射線技師長

吉野 雅志

当院の放射線科には、診断部門として「一般撮影」「X線TV」「CT」「RI」「骨密度」があり、治療部門として「リニアック」があります。

当院は呼吸器専門の病院ですので、胸部の一般撮影、CTはとても重要な検査となりますが、今回は意外と知られていない**骨密度検査**についてお話したいと思います。

骨密度検査とは

女性の方は**閉経後**に骨代謝に関わるエストロゲンというホルモンが急激に減ることにより**骨粗鬆症**(こつそしょうしょう)が増えてきます。50代と70代の女性では70代の女性が**約4倍**の骨粗鬆症が発生しているというデータもあります。

また、経口ステロイド薬は、骨を作る細胞の働きを弱め、骨を吸収する細胞の働きを強めて骨を弱くし腸や腎臓でのカルシウムの吸収を低下させたり、骨の量と質の両方を低下させたりします。薬の量が少なくても、3か月以上使用する場合はステロイド性骨粗鬆症に対する対策が必要です。

骨粗鬆症診断の目安の一つには「骨折はなくとも骨密度が若年成人平均値の**70%未満**」があり、男女問わず定期的に骨密度を調べておくことは骨粗鬆症による骨折予防にとっても大切なことと考えられています。

放射線科では、最新の全身測定装置を利用し短時間で被爆の少ない検査を実施しています。また検査結果にもわかりやすい説明の添付や骨密度に関する資料の配布等、患者さんの理解を深めていただいたり「**市の検診**」等問口の広い、検査を受けやすい環境を整備しています。

放射線科では、最新の全身測定装置を利用し短時間で被爆の少ない検査を実施しています。また検査結果にもわかりやすい説明の添付や骨密度に関する資料の配布等、患者さんの理解を深めていただいたり「**市の検診**」等問口の広い、検査を受けやすい環境を整備しています。

骨折予防の重要性

経口ステロイド薬
による
骨密度の低下

閉経後の急激な
骨密度の低下



骨密度検査
による予防



GE製 PRODIGY Fuga

当院の コロナワクチン 接種の取り組み

コロナワクチンワーキンググループ

三村 雄輔



皆さんはコロナワクチン接種を済ませましたか?注射が好きな方は多くはないでしょうから、接種を受けるべきか悩まれた事と思います。勇気を出して接種を受けられた皆様、本当にお疲れ様でした。コロナワクチン接種は通常の予防接種と異なり、パンデミック(世界的大流行)において人命を守るだけでなく、国家の安全保障に係わる未曾有の大事業と言えます。2020年12月2日に予防接種法が改正され、コロナワクチンの扱いは臨時接種とされ、国が接種を本格的に進める事となりました。当院では5月からの高齢者向けワクチン接種が7月末で概ね完了しました。

ワクチン接種が進んだおかげで、全国的に高齢者の重症者数と死亡者数は減少傾向が続いています。しかし、変異株の脅威は今後も続きそうなので、若年者へのワクチン接種も加速させて1日も早い免疫獲得がますます重要になっています。

ここでは、当院がワクチン接種のために行ってきた取り組みやその経緯について簡単に説明したいと思います。

宇部市の接種体制構築

ファイザー製RNAワクチン「コミナティ筋注」が英国で昨年12月8日、米国でその4日後に承認された頃、2020年12月28日のご用納めの日に山口県から県内の医療機関へ通達があり、年が明けた1月7日に県庁で接種体制の確保に係わる会議が開催されました。

そして翌週に山口県から当院に、宇部市を代表して基本型接種施設となるように白羽の矢が立てられました。当院がこの要請を受けなければワクチンが宇部に来ないと理解し、すぐに承諾しました。基本型接種施設には超低温冷凍庫を設置し、市内の複数の連携型接種施設で円滑に接種ができるように、ワクチン保管、残数の管理、ワクチン・生理食塩水・注射針・シリンジ等の払い出し業務等のセンター的役割を担います。薬剤部が引き受けてくれましたが、超低温での膨大な数のバイアルの扱いは薬剤師も経験がないうえ、少しの温度

管理のミスでもワクチン廃棄につながります。幸い宇部市では当院と連携型接種施設との協力体制、その他の宇部市医師会主導の個別/集団接種がスムーズに行われ、現在まで大きな問題も無く順調にワクチン接種が進んでいます。

院内での接種体制構築

当院では、3月の医療従事者への優先接種に向け、2月3日にワクチンワーキンググループ(WG)を立ち上げました。3月は年度末で、1年で最も忙しい月です。ワクチン接種にどれだけのマンパワーが出せるのか、多職種間で忌憚のない意見交換をし、きめ細やかな調整をしました。その間、国ではファイザー製のRNAワクチンが2月14日に薬事承認され、その3日後に一部の病院で先行接種が始まりました。2月24日には山口労災病院のご厚意で先行接種の現場を見学させて頂き、薬剤師によるワクチン管理・シリンジの準備、事務員による問診票確認、ワクチン接種円滑化システム(V-SYS)の運用法、医師による問診、看護師による接種、経過観察の手順を学びました。それを参考に、看護部が当院の接種会場設営を旧食堂で行いました。

問診票の事前確認、問診前の待機、問診、接種前の待機、接種、接種後の経過観察ができるよう十分なスペースに机や椅子を配置し、ベッド、急変時の酸素ボンベや救急カート等を配備し、患者同士がすれ違わないような動線も工夫しました。

接種開始直前のトラブル～接種開始

3月1日から医療従事者への優先接種が開始される方針が、2月半ばに政府から示されました。そのため2月25日には当院職員の間診票の印刷を始めていましたが、その夜の6時からの山口県主催ワクチン接種説明会で、ワクチンがいつ山口県に届くか未定と言われました。我々も準備を整えていただけに、直前になって

未定では困ると訴えましたが、県職員の謝罪と苦しそうな表情に同情したものです。既に3月上旬から始まる週の接種予定者や接種スタッフの振り分け作業を終えていましたが、1からスケジュールを作り直す羽目になりました。

その後、予定より5日遅れで無事にワクチンが届き、接種を開始しました。事務職員が問診票を入念に事前チェックしたおかげで、医師による問診も看護師による接種もリハーサル通り円滑に進みました。急変時のために気管挿管に慣れた医師が院内で待機し、無事に4月2日に職員の希望者全員が2回目の接種を終える事ができました。

高齢者向け接種

職員への2回目の接種が終わりかけた頃、65歳以上の高齢者向けワクチン接種を予定通り4月12日に開始する方針が政府から発表されました。宇部市内のほとんどの病院やクリニックの医療従事者に対してワクチン接種の目処が立っていない頃でしたので驚きました。4月8日には宇部市担当者とは会合を持ち、ワクチン供給体制について質問しました。またも供給日は未定だとの事でしたが、行政も大変だと、驚かなかったのも事実です。しかし、困った事にすでに宇部市のホームページには、予約受付可能な医療機関リストが公開されており、患者さんから当院への問い合わせの電話が鳴っておりました。患者さんと主治医からの要望に後手後手の対応になってしまいましたが、接種日は事務担当者が後日電話で通知すると言った綱渡りの対応でどうか4月12日から予約受付を開始しました。

その後、5月10日から65歳以上の高齢者向け接種を無事に開始し、現在のところ当院ではワクチンの廃棄もなく順調に進み、7月末で530名の方々に2回接種を行いました。

最後に

コロナワクチンの情報や取り巻く状況は日々変化している様に見えます。ようやくファイザーに加えてモデルナ社製のワクチンが認可され職域接種が開始されましたが、実際のところワクチンが希望日に予定数確保できない、と毎日のようにニュースのメインピックとして取り上げられています(2021年7月時点)。このように課題は次々と起こり、正解は誰も持っていません。解決にはWG各部門の代表者がすぐに集まれるネットワーク、信頼できる筋からの情報収集、丁寧な話し合い、そして実行にはリーダーシップが必要ですが、なによりもグループの信頼関係が重要でした。トップダウンの指示では頓挫することを初期に学習し、どの部門からも幅広く意見を吸い上げ、皆が納得したうえで協力してくれるよう話し合いました。おかげで皆が、患者さん

と医療体制を守るという目的意識を共有し、困難な問題を乗り越えてきました。手前みそで恐縮ですが、当院が優秀で献身的な人材に恵まれている事を誇りに思います。これからも患者さんが安心して当院を受診し、より良い医療を提供できるように努力を続けていきたいと思えます。最後に、ワクチンの確保供給、接種体制の構築、接種券の配布等にてご尽力下さった自治体の関係各位に深謝致します。



副反応についての説明



問診票の事前チェック



問診



接種



経過観察



緩和ケアチーム 勉強会

薬剤部 製剤主任 梶井 孝洋

令和3年6月30日(水)、今年度最初の緩和ケアチーム勉強会を無事開催することができました。まだまだ新型コロナウイルス流行下の中ではありますが、皆様のご協力のもと、感染対策を十分にしながら、行うことができたこと、厚く感謝申し上げます。

今回の勉強会は、当院緩和ケア医師の小笠原啓子先生より、「いま知っておきたい!“基本的緩和ケア”講座」と題し、緩和ケアに関して押さえておきたい基礎を講演いただきました。

緩和ケアとは、今までは治療終了後より開始されるものでありましたが、早期からの緩和ケアのメリットに関してのエビデンスも報告され現在では国内外問わず治療開始時から行われています。患者の苦痛には、痛みなどの身体的なものだけでなく、不安などの精神的なもの、経済的な問題などの社会的なものなど様々あるため、多方面からのアプローチが重要です。そのためには、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士、リハビリテーション部門、地域連携スタッフなど他職種で連携し、患者を支援していくことが必要です。

感染対策上、グループでのディスカッションは行うことはできませんでしたが、症例を通じながら、

チームアプローチの具体例を提示いただきました。看護師からのアプローチでは、環境調整を行ったり、利用可能な社会資源を活用していく等の意見が聞かれました。

また、音楽をうまく活用していくとの音楽療法士の意見もありました。最近の話題である～終末期に向けた話し合い～ACP(Advance Care Planning)が取り上げられました。ACPとは、将来の意思決定良力の低下に備えて、今後の治療・ケア・療養に関する意向について、本人と家族等や医療従事者があらかじめ話し合うプロセスのことです。これには利点、問題点がありますので、今後うまく活用していくことが求められます。

院外から9名の他、院内から多職種のスタッフ計40名の参加をいただき、有意義な勉強会となりました。本年度も今後の緩和ケアチーム勉強会の内容は未定ですが、今回を含め計3回予定しております。今後も、引き続き、このような勉強会を継続し患者とその家族によりよい支援が行えるように尽力していきたいと思います。

「手軽にできる健康づくり」への参加

リハビリテーション科 石光 雄太

宇部市では、国民健康保険における特定健康診査の結果、1日1時間以上の運動をしていない人の割合が、県平均及び全国平均に比べて高い状況です。そのため、健康づくりの意識を高めることを目的に自宅などで手軽にできる運動動画（令和2年7月から令和3年3月まで全9回）を制作し配信しています。

（検索▷「宇部市 手軽にできる健康づくり」）

運動での健康づくりで重要なポイントとしては、筋トレなら筋トレだけ、ウォーキングならウォーキングだけといった偏った運動ではなく、筋トレやウォーキング（有酸素運動）、ストレッチ、バランスを養う運動など複合的な運動が重要であるとされています。そこで紹介させて戴いた動画の中で、国立長寿医療研究センターが公表されている「体力向上パック」が上述したバランスが取れた運動となっており、どの年齢にも取り組みやすい運動となっております。

今回、上記施設へ許可を取得させて頂き、紹介させて頂きました。また地域の集いの場などで簡単・短時間に心肺機能や筋力を養うことが出来る「インターバルトレーニング」や、ストレッチ（リラククス）効果のある「呼吸法」の紹介をさせて頂きました。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する今、全国で身体活動量が低下していることが報告されています。このご時世、なかなか外で運動がしにくいといった方々に、お家で少しでも運動不足解消が出来ればといった願いを込め紹介させて頂きます。

なお、本ページには、私以外にもスポーツ選手やダンスやヨガの先生など様々な方々が運動を紹介されています。興味がある方はぜひ一度ご拝聴ください。

手軽にできる健康づくり

YouTubeID: 1011754 更新日: 2021年2月24日

10分 大きな文字で印刷

目次

- 2021年3月配信
- 2021年2月配信
- 2021年1月配信
- 2020年12月配信
- 2020年11月配信
- 2020年10月配信
- 2020年9月配信
- 2020年8月配信
- 2020年7月配信

2020年7月配信

山口宇部医療センター リハビリテーション科 理学療法士 石光雄太

内容

体力向上パック、運動する時間が取れない方へ

手軽にできる健康づくり (2020年7月配信)

ももを上げる
30回～50回

足をゆっくり持ち上げ
ゆっくり下ろします
足の付け根を意識しましょう
30に反対の足をゆっくり持ち上げ
ゆっくりおろします

2021年2月配信

山口宇部医療センター リハビリテーション科 理学療法士 石光雄太

内容

インターバルトレーニング

手軽にできる健康づくり (2021年2月配信)

Let's TRY
～膝け足で足踏みに挑戦～

①次の20秒間は可能な限りはやく足踏みをしてみましょう。

2021年3月配信

山口宇部医療センター リハビリテーション科 理学療法士 石光雄太

内容

呼吸法

手軽にできる健康づくり (2021年3月配信)

呼吸法

- ①息を大きく吸って体を横に伸ばします。
- ②吐き終わるまでに元に戻します。
- ③反対側にも伸ばします。
- ④3セット反復します。



夏の行事

キャンプだ！ ホイ！ホイ！ホイ！を開催

療育指導室 保育士

早崎 典子

梅雨明けが発表され、いよいよ夏本番となった7月14日(水)、きらら病棟で令和3年度夏の行事「キャンプだ！ホイ！ホイ！ホイ！」が行われました。

今回のテーマは、「キャンプ」！会場のデイルームがきららキャンプ場になり、「キャンプと言えばコレでしょ！」と思うことを楽しみました。

きららキャンプ場に着いた皆さん、お腹がすいては何も始まらないということで、みんなで相談した結果、「キャンプって言ったら、カレーじゃろう！」とみんなでカレーを作ることになりました。カレー作りが始まる前に、懐かしのアイドル「ヒデキ」がやってきてカレー作りがスタートしました！ニンジン、玉ねぎ、ジャガイモ、豚肉、カレールーを、歌に合わせてお鍋に入れていきました。出来上がったカレーを味見したヒデキから、「何か足りないぜ！」とアドバイスをもらい、リンゴと蜂蜜を入れ、とっておきのおいしいカレーが出来ました。

カレーの後は、きららキャンプ場のスペシャルイベント、キャンプファイヤー。カレー作りの賑やかな雰囲気から、厳かな雰囲気に会場が変わると、火の神と火の神の使いの登場です！火の神が指さしたスクリーン、映し出されたのは通所マラウの皆さんです。コロナウイルスの流行の影響で、交流が難しいため、今回はオンラインで2つの会場をつないでの交流となりました。通所マラウの皆さんが繋いでくれたトーチの火を、火の神が受け取り、会場の皆さんもトーチリレーで繋ぎ、会場のキャンプファイヤーに火がつくと、会場はとても感動的な雰囲気に包まれました。「コロナが早く収束しますように」とみんなで思いを一つに繋いだトーチリレー、みんなの思いが早く叶いますように。

感動的なキャンプファイヤーの後はダンスタイム♪通所マラウの皆さんが、ダンスの振り付けを教えてください、オンラインで一緒に踊りました。お互いに久しぶりに一緒に楽しい時間を過ごすことができ、夏の思い出が一つ増えました。

夏は、まだまだこれからが本番です！この夏も、コロナに負けずに、みんなで楽しい夏を過ごしたいと思います。



スピーカーズバンク

日頃から地域又は会社などで健康に関心があり、病気の予防、早期発見、治療などの話を聞きたいが、どこに依頼したら良いかわからない場合など、当院では、職員がお話できる内容を登録して、皆様からの講演依頼にお応えできるようにしており、これを「スピーカーズバンク」と名付けています。宇部市健康づくりサポーターバンクにも登録されています。



氏名(職名)	タイトル	内容
中岡 篤美 摂食嚥下障害看護認定看護師	「食べることは、生活の基本です」	<ul style="list-style-type: none"> 摂食嚥下障害について 安全に食べるための工夫 口腔ケアについて 誤嚥について 嚥下体操について
正木 克美 緩和ケア認定看護師	「エンディングノートを書いてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> 緩和ケアとは 早期からの緩和ケアについて 「死に方」「生き方」についてどのように考えていますか エンディングノートの一部を記入してみましょう 自身の価値観や死について心構えに気付く 死について考えること、大切な人と話し合う機会に繋げよう
中富 雅子 がん放射線療法看護認定看護師	「放射線治療とは何？」	<ul style="list-style-type: none"> がんの診断 治療方針決定までの流れ がん治療について がん放射線治療について 放射線療法における副作用や看護について
古田 貴子 感染管理認定看護師	「知っておきたい感染対策」	<ul style="list-style-type: none"> その手はきれいですか？ 手洗いの洗い残しを確認しましょう(実技) 感染対策の基礎知識 新型コロナウイルス感染症対策について 結核の感染対策について インフルエンザの感染対策について 感染性胃腸炎の感染対策について MRSA ESB L など薬剤耐性菌の基礎知識
藤田 浩美・齊藤 千恵 がん性疼痛看護認定看護師	「がんの痛みとうまく付き合うために」	<ul style="list-style-type: none"> がん性疼痛のある患者の看護 医療用麻薬使用時の看護 非薬物療法による疼痛緩和
佐伯 達矢 慢性呼吸器疾患看護認定看護師	「チャレンジ禁煙」	喫煙の害と禁煙
	「酸素療法を活用していきいき暮らそう」	在宅酸素療法
	「喘息発作を起こさず生活するコツ」	喘息の発作予防と日常生活での留意点
小嶋 麻衣子 がん化学療法看護認定看護師	「がん治療をしながら生活していくためには」	<ul style="list-style-type: none"> がん治療について 抗がん剤治療について 抗がん剤治療における副作用について
梶井 孝洋 主任薬剤師	「痛みに対する薬について」	<ul style="list-style-type: none"> 痛みの分類 痛みに対する薬について(オピオイド、鎮痛補助薬等) 医療用麻薬の基礎知識
宮川 貴行 主任薬剤師	「がん薬物療法における薬剤師の関わり」	<ul style="list-style-type: none"> 標準療法(肺がん) 副作用(支持療法)
木下 裕貴 薬剤師	「抗菌薬について」	<ul style="list-style-type: none"> 抗菌薬と抗生剤の違い 抗菌薬の正しい飲み方 抗菌薬と風邪について
根本 眞理子 栄養管理室長	「食事と健康 ～何をどれくらい食べるとよいのでしょうか～」	<ul style="list-style-type: none"> 参加者に、自分の食べている食事量を認識していただき、適正な食事量を説明する 健康を保つための食事バランスを共に考える
	「食事と健康 ～(希望に合わせたテーマで)～」	対象者の希望に合わせたテーマや形式を用いて栄養情報を届けます。
伊月 将人 R1検査主任 X線CT認定技師 肺がんCT検診認定技師	「みんなの疑問に答えます！ 放射線Q&A/放射線被ばく等」	<ul style="list-style-type: none"> 放射線による人体の影響について 医療被ばくの線量について 低線量肺がんCT検の有有用性について
石光 雄太 理学療法士 3学会合同呼吸療法認定士 介護予防運動指導員 フレイル対策推進マネージャー メディカルアロマインストラクター	「超高齢社会におけるサルコペニア・フレイルへの対策 ～身体(口腔)・精神・社会環境から心まで～」	サルコペニア・フレイルとは何か、対策について
	「今から始める介護予防！」	介護予防について (転倒、認知症、排尿障害、関節症の予防・改善)
	「チームで行う包括的呼吸リハビリテーション ～急性期・慢性期・終末期・地域での早期発見に向けた関わり方～」	呼吸リハビリテーションの定義の再認から、各領域での介入方法、地域での予防活動の方法などについて
	「NPPVとHFNCの正しい使い方と リハビリテーション」	近年、多くの施設で取り扱われるNPPVやHFNCの正しい使い方、使用しながらのリハビリについて
	「香りの力 ～アロマセラピーのすすめと注意点～」	精神や身体的な様々な効果があるアロマセラピーの用法容量などの基礎的な使い方について

外来診療担当医表

令和3年8月1日 現在

診療科	概要	月	火	水	木	金
内科新患外来		青江 啓介	前田 忠士 村川 慶多	山本 佑	兼定 晴香 藤井 哲哉 原田 美沙	角川 智之 久本 優佳里
内科紹介外来			亀井 治人	亀井 治人		亀井 治人
内科			石田 浩一			石田 浩一
呼吸器内科		坂本 健次 伊藤 光佑 兼定 晴香	恐田 尚幸 松田 和樹	恐田 尚幸 末竹 諒 松田 和樹	大石 景士 村田 順之 伊藤 光佑	末竹 諒 村川 慶多
腫瘍内科	抗がん剤治療 肺がん等	前田 忠士 近森 研一	青江 啓介 宇都宮 利彰	近森 研一	前田 忠士 宇都宮 利彰	青江 啓介
画像診断科	画像診断等		松本 常男			松本 常男
呼吸器外科新患外来		井野川 英利		沖田 理貴	岡田 真典	
呼吸器外科・外科	肺がん	沖田 理貴 岡田 真典		井野川 英利 岡田 真典	井野川 英利 沖田 理貴	
乳腺・消化器外科	胃がん・ 大腸がん等	平澤 克敏		平澤 克敏 (午後のみ)		平澤 克敏 (手術で不在の場合あり)
循環器内科	心臓・高血圧等	佐伯 幸男		佐伯 幸男		
緩和ケア内科	※完全予約制	竹内 愛	小笠原 啓子		竹内 愛	
放射線科	画像診断・ 放射線治療等	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎	田中 伸幸 田口 耕太郎
小児科	障害児外来 ※紹介予約患者のみ 診察			奥田 裕美		沖野 文子
精神・神経内科	てんかん等	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘	小野 光弘

※下記診療科は入院患者のみ診療

消化器内科	内視鏡等		山本 直樹			
整形外科	リウマチ・骨粗鬆症等					今城 靖明
歯科			中島 大輔	竹縄 隆徳		
耳鼻いんこう科				竹中 裕紀		
神経内科				押部 奈美子		

① 外来受付時間：午前8時30分～11時30分 【外来診療開始時間：午前8時45分～】

※内科新患外来：午前9時30分～11時00分 / 内科紹介外来：午前9時00分～11時00分

② 再診の予約受付は、医療事務室までお問い合わせください。

③ CT及び核医学(シンチグラム)の外来紹介は、地域医療連携室(内線2452)までご連絡ください。

患者紹介に関するお問い合わせは、地域医療連携室まで

地域医療連携室

受付時間 / 毎週月～金曜日まで 8時30分～17時15分

TEL(0836)58-4100 FAX(0836)58-2938

